

## 勉強会報告

勉強会は、平成 27 年 2 月 11 日 10 時より、首都大学秋葉原サテライトキャンパスにて「母乳育児の情報と母親のインターネット事情」「授乳期の母親の栄養」をテーマとして開催されました。朝からの開催にも関わらず、80 名の方がご参加くださいました。

会を始めるにあたって、今回の勉強会の実行委員長である楯亜希子先生よりご挨拶がありました。午前の部は、「母乳育児の情報と母親のインターネット事情」というテーマで座長を桶谷桐子先生、滝元宏先生を座長にお迎えし始められました。演者の鈴木智子先生からは、実際お子様を母乳で育てられた経験を活かして、現在取り組まれているインターネットを利用した育児支援についてお話頂きました。産婦人科医でもある宋美玄先生からは母乳でお子様を育てられている際に情報収集のツールとしてインターネットで得た情報について収集を得たことや、母乳哺育の考え方についてお話いただきました。

午後の部のシンポジウムでは、授乳期の母親に対する栄養の大切さについて討論しました。基調講演では、丸山智美先生（金城学院大学）より、授乳婦の方にとっての栄養の大切さが妊娠前からどのように変化するか、を現在の日本の食文化の変化も踏まえわかりやすく解説して頂きました。シンポジストの山本よしこ先生からは、UNICEF/WHO の赤ちゃんとお母さんにやさしい母乳育児支援ガイド ベーシックコースセッション 13「母親の健康に関することがら」に記載されている「母親が種々の食べ物を十分に食べれば、必要なたんぱく質、ビタミンとミネラルが摂れます。母親は母乳育児をしているときも、特別な食べものを食べたり、特定の食べ物を避ける必要はありません」という文章のエビデンスを PubMed（医学文献サービス）を用いて検索した結果を解説されました。臼井淳美先生（群馬パース大学）からは、実際母乳哺育でお子様を育てられているお母さまの立場から実際にご自身で経験されたご家族とのお話し、他のお母さまとの関わりなどについてお話いただきました。堤ちはる先生（相模原女子大学）からは、研究結果を踏まえて、妊娠・出産を経て変化した授乳期の身体の消耗を補うために栄養バランスの良い食事をとることの重要性を管理栄養士の立場から解説して下さいました。最後のシンポジストの森昌代先生（IBCLC）からは、授乳期の女性を取り囲む食事の問題について助産師の立場としてどのように支援されているかを解説して頂きました。

休憩後、松田恭寿先生（まつだこどもクリニック）と黒川賀重先生（BFH 黒川産婦人科医院）の司会で、シンポジストの先生方と会場の方とのディスカッションが行われました。会場からは、助産師や小児科医の先生方から質問だけでなく、実際に母乳哺育をされているお母さまからのご質問やフロアにいた現在子育て中の男性陣からどのように子育てをフォローしているかコメントをもらうなど、授乳期の栄養について活発な質疑応答が行われました。最後に第 31 回日本母乳哺育学会学術集会について黒川会長より案内がありました。

午前と午後の 1 日がかりの勉強会ですが、ほとんどの方に一日を通してご参加いただけ

ました。有意義な勉強会をありがとうございました。 文責：若菜

